

精神医療における 『対話実践の社会的実装を考える国際シンポジウム』 ーオープンダイアログと当事者研究というインパクトー

開催趣旨

我が国の精神医療が、1980年代に入り精神病を「脳病」の視点から捉え、薬物療法を第一選択とする流れが加速する中で、2000年代に入り、世界の潮流は薬物療法の限界を踏まえ、当事者との協同を含めた多面的アプローチが模索されるようになってきました。その中で、最も注目されているのが「対話主義(dialogism)」です。

1978年、フィンランド(オープンダイアログ)と北海道浦河(当事者研究)のメンタルヘルス領域で偶然にもはじまった「対話」の視点から、人と地域に向き合おうとする実践は、精神医療の世界に新たな期待と可能性をもたらしています。

このたびは、オープンダイアログの創始者であるヤーコ・セイックラ氏(ユヴァスキュラ大学心理学部)と当事者研究の誕生に関わった向谷地生良氏(北海道医療大学/浦河べてるの家)の基調講演を軸に国内外の研究者、臨床家をお招きし、対話実践の可能性と社会的実装に向けた手掛かりを模索したいと思います。

主な講師(順不同/敬省略)

- ヤーコ・セイックラ(ユヴァスキュラ大学心理学部)
- 向谷地生良 (北海道医療大学先端研/浦河べてるの家)
- 斎藤 環 (筑波大学医学医療系社会精神保健学)
- 石原 孝二 (東京大学大学院総合文化研究科)
- 熊谷晋一郎 (東京大学先端科学技術研究センター)
- 李 容標 (リ・ヨンピョ・韓国カトリック大学社会福祉学部)
- 金 大煥 (キム・デファン・韓国清州精神健康センター)
- 裴 珍英 (ベェ・ジンヨン・韓国障害者権益問題研究所)

○郭 可盼 (クオ・コファン 台湾/社会福祉法人エデン福祉財団) 申し込みQRコード

日時 2024年2月28日(水) 午前 9:30~12:00
午後 13:00~17:30

主催 北海道医療大学先端研究推進センター

協力 北海道医療大学国際交流センター
(社福) 浦河べてるの家

参加方法 対面参加(一部、オンラインによる視聴)

参加費 無料(右のQRコードから申込みください)

会場 北海道大学学術交流会館小講堂(札幌市北区北8条西5丁目8-1)

問い合わせ先 北海道当別町金沢1757 北海道医療大学先端研

奥田研究室TEL 0133-23-3162 k-okuda@hoku-iryu-u.ac.jp



プログラム(敬省略)

○午前のプログラムー基調講演と講話

司会 奥田かおり

9:30-09:40 主催者挨拶

座長 阿部 幸弘(こころのリカバリー総合支援センター)

9:40-10:20 基調講演 I ヤーコ・セックラ

「オープンダイアログを社会的に実装する」

10:20-10:50 基調講演 II 向谷地生良

「自分自身で、共にー当事者研究のインパクト」

休憩(10分)

11:00-11:30 講話 I 石原 孝二「対話の哲学」

11:30-12:00 講話 II 熊谷晋一郎「当事者研究の広がり」

休憩(50分)

○午後のプログラムー「対話実践と社会的実装」

司会 鈴木和 座長 橋本菊次郎(北海道医療大学)

12:50-13:20 斎藤環「日本におけるODの社会的実装」(仮題)

13:20-14:00 李容標/裴珍英

「韓国のメンタルヘルスにおける対話的アプローチ:ピアレスパ
イトにおけるオープンダイアログに焦点を当てて」

14:00-14:30 金大煥「韓国における対話実践の現状と課題」

14:30-15:10 郭可盼

「台湾におけるオープンダイアログの取り組みと課題
ーChiau Chiauモバイルチームの実践から 」

休憩(10分)

○指定発言 「対話実践の現場から」 進行 向谷地生良

15:20-16:30 現場で対話実践に取り組んでいる皆さんからの報告
札幌なかまの杜/浦河

○経験・実践交流

16:30-17:20 ヤーコ・セックラ氏(オンライン参加)を囲んで、意見交換、
経験交流の時を持ちます。

17:30 終了